



さいかい

2019. 9
Vol.106
Summer

～Contents～

- 02 : 県学会報告
- 04 : 新人紹介
- 06 : 達人tell me
- 07 : 活動報告 児童デイサービスACTしまばら
- 08 : お父さんOT
- 09 : OT協会&全国都道府県士会ニュース
- 10 : 第2回九州作業療法学会
- 12 : 啓発グッズ

令和の時代へ...



書家：金澤翔子氏 第26回県学会イベント作品

発行元：一般社団法人長崎県作業療法士会 事務局
 長崎市愛宕1-36-59 長崎医療技術専門学校内 代表 沖英一
 企画・編集 | 長崎県作業療法士会 広報局
 諫早市久山町1575-1 宮崎病院 TEL:0957-25-4800
 南島原市口之津町甲1181 哲翁病院 TEL:0957-86-3226



第26回 長崎県作

2019年3月30・31日、佐世保市体育文化館とアルカスSASEBOにおいて開催され演題発表82演題、会員・一般合わせのべ595名の参加がありました。無事県学会を終えることができ沖会長と理事をはじめ運営委員、講師の先生方や会員の皆様に感謝しております。

長崎県は日本一！！

第25回の県学会閉会式で私は「長崎県は日本一」と挨拶をしました。「何を言ってるの？」と感じた方が大半だったと思います。私は、岡山から転勤し長崎で生活することになりました。転勤当初は「おいしいお土産もあるし、見上げる夜景も素敵じゃし...いい街よ」と両親や岡山の同僚に話していました。ところが実際に生活していくと、狭い路地で車をぶついたり、飲み会の帰りには命がけで坂を上ってやっとのことで家にたどり着いたりと不便に感じるが多かったのです。長崎の文化や地域にも徐々に慣れてきましたが、これらは仕事においても同様に感じるがあります。長崎県は坂の街や離島にみられる交通不便な土地であり、高齢者や障害者への配慮と整備が不可欠な土地です。また肥満率や糖尿病患者数が全国においても上位に入っています。つまり、健康を左右する阻害因子が多い中、我々作業療法士はこれらの環境や文化の中でリハビリテーションを展開しています。他県と比較すると課題は多いことは言うまでもありません。そのため、これまで培われた技術や指導力は優れていると自負しています。近い将来、我が国は少子高齢化に伴って社会生活を営むのが困難になると予測され、長崎県のリハビリテーションは全国に発信する要素が大いにあると思います。



金澤 泰子さん

菅 賢治さん

金澤翔子さんの書道場面



目標達成ならず。しかし82演題を集める！

今回どのようにして全国の作業療法士に「長崎県が日本一」ということを示すことが出来るのかと考え、演題数100演題や参加者数1000人と定量的に目標を立てました。演題は例年40演題程度であり、目標を達成するには困難であることは予測していたため、各病院や施設に演題発表のお願いの電話をかけ、なかば強引？に依頼しました。参加者数は、少ない予算の中で幸運にも（実際には粘り勝ちですが...）金澤翔子氏と泰子氏、菅賢治氏を招くことが市民公開講座で目標達成できると予測していました。市民公開講座では、市民の参加数は予測していた数より大幅に少なかったのは残念です。



業療法学会報告

第26回長崎県作業療法学会 会長 塚本



とことんやった広報活動

学会を盛り上げる演出としてロゴマークを作成しました。作成にあたり以前勤務していた吉備高原医療リハビリテーションセンターの教え子である濱口太郎氏に依頼しました。

また振り返ると第52回日本作業療法学会の広告スペースに県学会のポスターを掲示できたことや学会予算内でタウン誌に掲載できたこと、佐世保市教育委員会や地区公民館長と調整して佐世保市小中学校児童・生徒や佐世保市民にチラシを配布できたことは貴重な経験となりました。

県北地区の強い団結

学会準備においては、学会テーマが壮大であったため、各委員長にとって相当なプレッシャーになったと思います。実行委員長をはじめ各委員長の強い連携があったからこそ実現することができました。また仕事終わりにチラシの仕分け作業や会場設営、当日の運営など手伝っていただき本当にありがとうございました。



山田先生の教育講座の実技



ポスター発表



健康フェスタ



レセプション余興



祝 グッドデザイン賞受賞

ポスターデザインに優れている方々が受賞しました♪



芳舞会の日本舞踊

高まった学会への関心。次の手は・・・

県民に対して作業療法をすることで健康の向上を図るためには、長崎県作業療法士の意思統一が重要です。学会で人を集めることは大前提であり、そのためには人を集める手段を考える必要があります。長崎県作業療法学会の役割は大きく、本来はその内容で人を集めるべきです。しかし、現実的にはそうはいかないです。その点では今回は少し大胆な方法になったかもしれません。先ほど述べたように今回は82演題が集まりました。これは学会に対する関心が高まっているということが言えます。今後、作業療法士や県民などが作業療法の学術に関心を持ってもらうことが課題です。次は第2回九州作業療法学会が長崎で開催されます。私も演題登録が出来るように準備しています。さらに、第53回作業療法学会で県学会の報告をしてきます！「長崎県が日本一!!」と...



REIWA

先輩方、ご指導

よろしくお願ひいたします！

Fresh



村田実里
長崎北病院
国際医療福祉大学
PF

大原 対子
長崎北病院
国際医療福祉大学
PF!!!!

辻野 葉子
長崎北病院
長崎大学
PF!!!

山下 幹太
池田病院
長崎リハビリテーション学院
BIGになる!!

尾崎 龍二
耀光リハビリテーション病院
長崎医療技術専門学校
患者様 第一
が人づくり

下田 航
長崎大学大学院
医歯薬学総合研究科
石井 宗成
OTと日給647.

渡木 彩夏
長崎記念病院
長崎大学
糖質と 視力からアプローチ
OTとOTになる

川中 瑞帆
長崎大学大学院
医歯薬学総合研究科
長崎大学
飛躍を極めた!!

山崎 大空
長崎北病院
国際医療福祉大学
強いOTになる。

河野 碧
十善会病院
長崎医療技術専門学校
勉強、沢山頑張りました!

岩崎 麻鈴
上戸病院
長崎医療技術専門学校
笑顔で前向き頑張る!

山本 蓮
長崎医療技術専門学校
上戸病院
頑張ります!

野中 為太
耀光リハビリテーション病院
福岡医療技術専門学校
知識を活かせるOTになりたい!

藤原 瑠人
十善会病院
長崎医療技術専門学校
一人前のOTになる

佐藤 りお
三川内病院
長崎医療技術専門学校
患者様と笑顔でOTになる
7月まで

岸川 夕希子
三川内病院
長崎リハビリテーション学院
OTとOTになる
OTとOTになる

諸富 優輝
長崎北病院
長崎リハビリテーション学院
PF!!

松本 花菜
長崎北病院
長崎大学
患者様の笑顔を目指して
セラピストになる

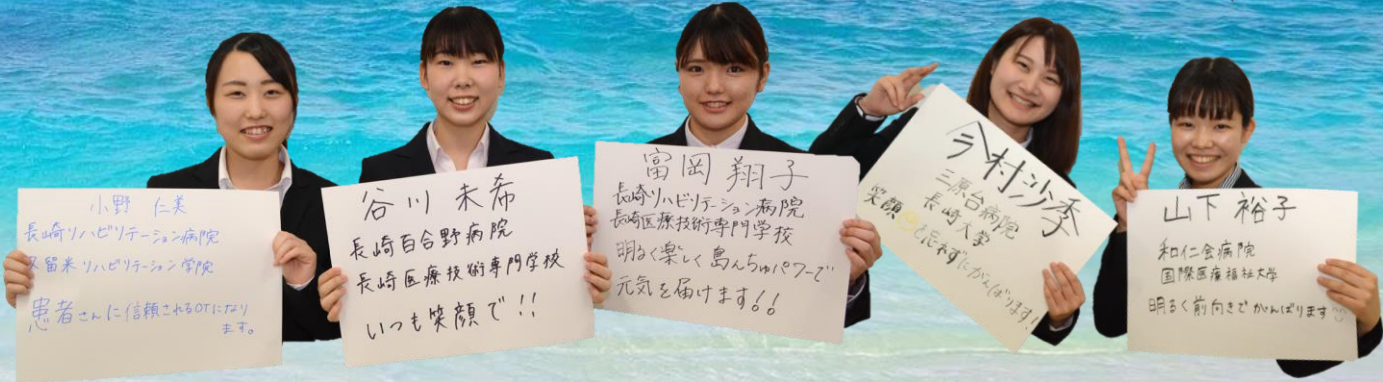
山口 朱里
長崎北病院
広島大学
PF!!

START!

新人オリエンテーションに参加され
新人会員のみなさんをご紹介！

ようこそ！ 長崎作業療法士会へ！！

New comer





目標 166 演題！

各施設、1演題以上の参加をよろしく申し上げます

九州作業療法学会 2020 in 長崎

「作業療法技術の伝承と未来の創造」

INFORMATION

会 期：2020年6月20・21日(土日)

会 場：長崎ブリックホール

<https://kyuot2020.secand.net/>



ロゴマーク制作：濱口 太郎さん
(脊髄損傷当事者)

車椅子生活も気がつくと13年目、地元佐世保に戻り6年目。ヘルパーさん、訪問看護さんに入ってもらいながら一人暮らしを楽しんでいます。3年前、褥瘡での入院がきっかけで1からリハビリを特訓し、今は傷を作る事無く過ごさせています。

ロゴデザインを始めたのは佐世保に戻ってから、先生はYOUTUBEです！友達のお店の名刺を作ったり、似顔絵を作ったり、喜んでもらえる事が嬉しくて続けるうちに、徐々に技術も上がってきました。

現在は就職も決まり、会社のパンフレットを作るお手伝いをさせて頂いております。

特別な2日間 全国学会レベルのラインナップ！

基調講演 フレイルの包括的な理解と介入戦略～生活へのアプローチ

牧迫 飛有馬氏（鹿児島大学）

教育講演1 精神科作業療法における臨床研究の進め方

小林 正義氏（信州大学）

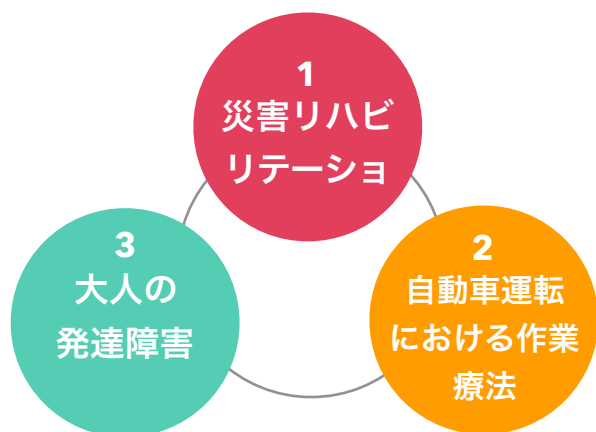
教育講演2 高次脳機能と行動制御（仮）

鈴木 誠氏（東京家政大学）

教育講演3 作業療法の原点回帰：作業に焦点を当てた実践とは

友利 幸之介氏（東京工科大学）

バラエティに富んだシンポジウム！



オーガナイザー

1 淡野 義長氏

（長崎リハビリテーション病院）

2 澤田 辰徳氏

（東京工科大学）

3 田中 悟郎氏

（長崎大学）

体験・参加型の「福祉機器展」開催！

日々の臨床現場に活かせる展示にご期待ください！



- ・車椅子の展示（電動・スポーツ用など）
- ・障害者スポーツの紹介など
- ・スプリントの展示とワークショップ

（注）展示の内容は現在検討中です。
画像の商品と異なりますのでご了承ください。



山田 麻和さん
社会医療法人春回会 長崎北病院

一人ひとりに合った支援を大切に!

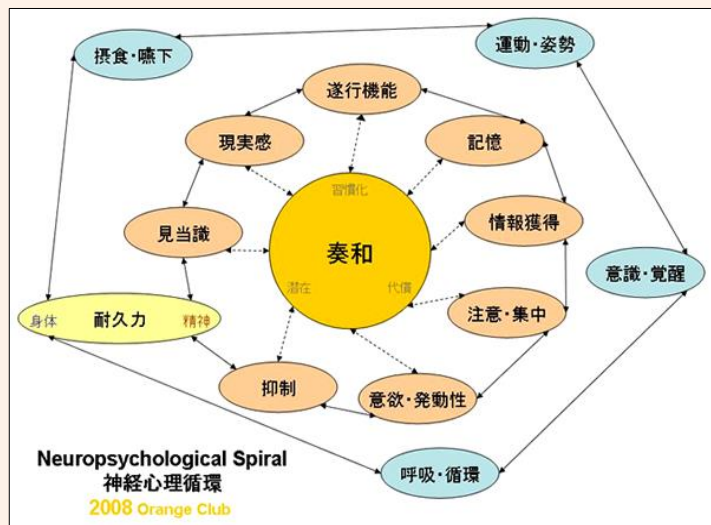
「高次脳機能」をどう捉えるか

高次脳機能とは、障害がある／ないに関わらず、生活する上で全ての人にとって必要な脳機能ですが、親近感があるかという嫌煙されがちです。それは、言葉自体の「用語の難しさ」と頭の中の思考が「目に見えない」ことが根底にあるのではないのでしょうか。また、発達障害や精神疾患の方とはどう違うのでしょうか。先天性か後天性か、損傷部位（領域）の違いはあっても、脳機能自体は役割も同じです。疾患にとらわれず、共通認識として「高次脳機能」を捉えていくことも大切ではないかと思っています。高次脳機能の低下が生活を充実できない、生活しにくい理由にならないように、私たちの支援のあり方もより充足していくことが

求められています。

正直、専門の大学へ進学するまで「高次脳機能障害」という言葉に触れる機会はなく、ようやくテレビで聞く機会が増えてきた程度ではないかと思っています。近年、「高齢者（障害者）の自動車運転」がトピックスになっていることもあり、認知機能や高次脳機能への関心は高まっていると感じています。しかし、聞き慣れない上に目に見えないため頭の中でイメージしなければならず、複雑で混乱してしまうのが現実です。専門職として働く私たちでもそう感じるのですから、当事者の方やご家族はもっと大変なのだと思います。

対象者やご家族にわかりやすく伝えるために



高次脳機能についてわかりやすく伝えるにはどうすればよいでしょうか。私は全体の枠組みの説明として神経心理循環の図を使用することも多いです。私たちの見える身体の部分と見えない頭の中が繋がっていることを示しており、シンプルでわかりやすいと感じています。身体も頭の中もどちらも大切ですし、全てが出来ないことも少ないので、保たれている面や強みになる部分を見だし、苦手な部分をサポートしていく視点で見ることが出来れば、一人ひとりに合った支援（対応）を展開しやすいと考えます。

神経心理循環とは

オレンジクラブのスタッフ、当事者、家族の経験から考案された高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方を明示したシェーマ

「高次脳機能障害」をその人の特性(個性)の1つとして捉える

「苦手」なことは私たちにもありますが、自分自身の苦手を知っていることで事前の対策をとり、他者に助けを求めるなど、使える資源は大いに活用し、時にはトライアンドエラーを繰り返しながら対応しています。同様に、このような創意工夫が「高次脳機能障害」があっても「生活のし易さ」に繋がっていくのではないのでしょうか。「どうやったらできるか」を考え

ていくために、目に見えない部分を「見える化」し、その人に合わせて工夫やアイデアを出し合っていく一連の作業は、経験年数や年齢を超え作業療法士の得意とする所だと思います。「高次脳機能障害」を特別な問題ではなく、その人の特性（個性）の1つとして捉えることでより幅のある支援（対応）に繋がるのではないかと思っています。

【活動報告】～第22回長崎県学童保育連絡協議会研究集会に参加して～ 児童デイサービスACT(アクト)しまばら 管理者 兼元博康

皆様こんにちは！ 去る2月10日に開催されました「長崎県学童保育連絡協議会」において、こども医療福祉センターの琴岡OTと一緒に、障がいや特性をもった子供達の支援についてお話させて頂きました。当日は底冷えする程の寒さにも関わらず、長崎県内の学童保育に携わられる方々が230名以上も参加されており「気になる子供」が地域の中でも多く生活をしていることを実感させられました。また同時に、その子らと、どのように接すれば良いかと皆さん真摯に取り組みされており、琴岡OTの講演の際には、感覚統合に関する内容や、具体的な対応方法等の質問も上がり活発な研究集会となりました。

私自身の印象としては、やはり「集団生活の中で…」という部分に、皆さんお困りのようで、1人の職員が多くの子供を相手にする学童保育の現場では個別の対応が難しい為、児童の「特性に応じた」環境設定や場面設定が出来る場所が必要であると、改めて感じました。講演後、とある事業所の職員さんから「色々な友達と遊んだり触れ合うための機会は、学校内や放課後でなくては体験する事が出来ないと思っています。特性のある子供でも落ち着いて、楽しく過ごせるような学童保育を目指したいと思います。」とのお声掛けも頂き、制度や現場が違えども「皆思いは一緒だな～」と、今回の講演会に参加し、一番印象に残り、私自身も学ばせて頂いた出来事でした。



第22回長崎県学童保



(中央)学童保育連絡協議会の小山会長 (右)琴岡OT

児童デイサービスACT(アクト)しまばらのご紹介

放課後等デイサービス・児童発達支援
児童デイサービス ACTしまばら

すべての子供に「あそび」と「まなび」を、誰一人取り残さない ～OTだからできる支援を～

当事業所では集団生活の中での様々な活動を通じ、障がいや特性を持った子供達が、より多くの経験を積むことができるよう『すべての子供に「あそび」と「まなび」を、誰一人取り残さない持続可能な活動環境の提供』を目標に事業を実施しています。内容的に「〇〇プログラム」や「□□アプローチ」などを積極的に実施しているわけではありませんが（もちろんOT的視点で介入はしています、笑）児童同士の関わり合いを最大限に生かしながら、同世代の子供達が経験している事と、同様の経験する事が出来る様、日々の作業療法を実施しております。また当事業所は医療的ケアが必要な児童も比較的多く在籍しています。経鼻経管栄養・気管切開・中心静脈栄養など現場での処置が必要な児童から、脳神経疾患や難病、染色体異常等の先天性疾患を有する

児童、また合併症等で循環器・消化器・呼吸器にも何らかの障害を有し、日々の経過に配慮が必要な児童等…。その子供達が「あそび」と「まなび」を安心して安全に経験するために、県南・県央地区小児医療のセンター機能を有する病院のスタッフの皆さんには日頃より大変お世話になっております。また、事業所の協力医療機関や連携医療機関の医科・歯科の先生方にも研修を実施頂いたり、実際に事業所に出向いて頂いたり、多くの協力を得ながら、地域の皆さんと一緒に試行錯誤しているところです。我々の事業所だけでは出来る事は多くはありませんが、引き続き心強い皆さまの応援も得ながら、取り組んで参りたいと考えています。島原のすべての子供達に、持続可能な「あそび」と「まなび」を！地域の子供たちもOTで支えて行きましょう!!



「家庭と仕事のバランス」を保つための工夫

連載企画

×

お父さんOT

今回のお父さん



Hara Shuhei

原修平・30歳

宮崎病院 回復期病棟勤務 7年目

身長：178cm 体重：80kg BMI：25.2（肥満） 血液型：A型

興味ある分野：上肢機能アプローチ／半側空間無視／リハ栄養／目標設定・意思決定

趣味：映画鑑賞（watchaというアプリで採点するまで）／筋トレ／子どもの写真を撮る

家族構成：妻せりか 長女いちか2歳 次女りんか10ヶ月

もっと作業療法を知りたい

私は長崎医療技術専門学校を卒業後、宮崎病院に就職しました。急性期病棟を2年間経験した後、現在の回復期病棟で勤務しています。

働き始めは正直、目の前の患者さんのことで精一杯でOTの面白さや魅力など全く考えるヒマもなく毎日が過ぎていったのを覚えています。

回復期病棟配属後、担当した患者さんの「障害受容」について悩んだことは自分のOT人生の中でも大きな一つの契機となり、OTの魅力にのめり込むきっかけとなりました。目の前の患者さんが少しでも良くなるように日々の臨床に向き合うことで、もっと勉強したい、もっと作業療法を知りたいという気持ちが強くなってきた矢先、次女りんかが誕生しました。

育児が忙しくて勉強できない

仕事にもっと時間を費やしたい、研修会に行きたいと思う一方、次女が生まれたことで我が家の育児は倍以上に忙しくなり、今まで妻に任せていた育児も妻一人では難しい状況になりました。「家庭と仕事のバランス」がどうか保てないか悩みました。そこで今回、「家庭と仕事のバランス」を保つために私が工夫していることを紹介させて頂きます。

一つ目の工夫

「ほぼ定時で帰る」

家にいる時間を少しでも増やすために努力しています。タイミング的にも働き方改革が追い風となりました。家に帰り、子どもを風呂に入れ、童話を読み聞かせています。私が好きな話は「三枚のおふだ」です。笑

二つ目の工夫

「SNSの利用」

今では時間もお金も限られており、研修会に行く頻度が減りました。院内研修がeラーニングに変わったことでネット上でも勉強できる手段があるのではと探していると、SNSでウェブ配信での講義が受けられることを知り、今では週1回程度利用しています。オスズメは、竹林崇先生（大阪府立大学）のインスタグラムでのインスタライブです。竹林先生に関しては、芸能人並にファンになっています。笑。他にも情報収集ツールとして、ツイッター・フェイスブック・ユーチューブなども利用しています。

三つ目の工夫

「21時からの家事」

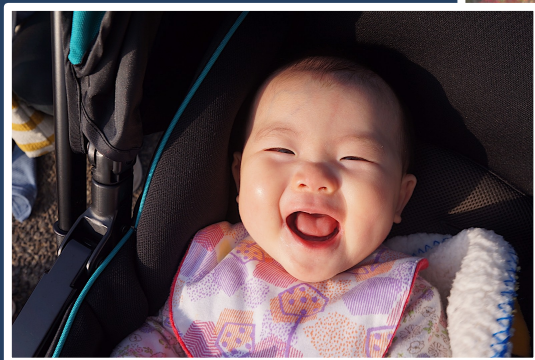
定時で帰る代償として、自宅でする仕事は持ち帰り、家事として取り組んでいます。またアウトプットの資料を作成したり、SNSで気になった書籍を買い漁り、読み込んだりと子どもができたことで、夜の活動が活発になっています。

時間の有効活用

子どもができる前と比べて時間を有効に使うことができていると思います。正直、子どもができる前の方が自由な時間は多かったのですが、今の方が時間を有効に活用できており、仕事・趣味に費やす時間は多くなっています。ただ、家庭にしわ寄せが来ないように工夫しながら仕事を頑張っているというアピールしたいのですが、家族のサポートなしに今の生活はできません。妻・家族のサポートに感謝です。

やさいこ

今回お父さんOTでいくつかの工夫を紹介させて頂き、長崎県のお父さんOTに参考にして頂ければ幸いです。また、長崎県は離島も多く研修環境が整っていないため、インターネットでの自己研鑽は非常に有効と思います。ぜひ利用してみてください。



会長に中村春基氏が再任

5月の2019年度定時社員総会において22名の理事が選任され、会長には中村春基氏が6期目の選出となった。
現在、OT協会の会長、および理事選出は代議員制で行われている。代議員制度とは社員の中から選挙で「代議員」を選び、その代議員が社員総会の構成員となり、総会の議決権を行使する。
長崎県作業療法士会からは現在4名が代表を務めている。今年度11月には代議員選挙を予定している。会員であれば県士会代表の代議員に立候補することができる。

OT協会の 動向と方針

最近の協会に関する情報の中から3点を紹介する。

① OT協会員と県士会

現状ではOT協会と県士会は別々に入会し、別々に会費を納入し、別々に会員情報管理を行っている。これを一元化し、入会や会費納入、会員情報管理などを協会主動で行いたいと考えているが、各士会の年会費の違いや法人格の違い、また定款の違いなど多々問題があり、現在調整中である。これが実現すれば県士会レベルでの会費納入チェックや未納者への連絡など、事務局業務の他、研修会受講歴管理の教育局業務も大きく助かることになる。筆者としては早く実現を望む。

② 全国研修会の終了

2017年度新潟会場を最後に作業療法全国研修会の開催は終了した。今後、全国研修会に替わる新たな事業として、ブロック学会において一部合同開催を提案している。

例えば九州作業療法学会や東北作業療法学会など、各ブロック単位の学会の中で、OT協会主催の講座を3枠程度実施していく。内容は協会の方針および重点活動に関するものを予定しているとのこと。まずは次回の東海北陸作業療法学会で開催するようだ。

③ 今後の方針（目標）

- ・ 教育を世界水準（修業年限を4年以上）に引き上げる。
- ・ 資格取得後の研修を義務化する。【5年後を目標】
- ・ 国家資格を更新制にする。【10年後に動き出したい意向】

ヨンナナ委員会

「47都道府県委員会」をご存知だろうか。年3回、2月、7月、11月に各士会の会長に加え、副会長もしくは事務局局長など総勢80名ほどが参加し、協会の活動計画と報告、及び各士会の活動報告などがなされ、意見交換を行っている。

この通称「ヨンナナ委員会」は2日間開催され、多岐に及ぶ情報が提示され、毎回参加される沖英一会長も「いつも頭がいっぱいになる」、「あまりにも情報が多くて、何を（県士会員に）伝えるべきか整理するのに時間がかかる」とのことだ。ちなみに7月27・28日で開催された今年度第2回の委員会では、資料があっただけでも26件の報告や事業紹介があった。

こんなことやっています

他県の士会

47都道府県委員会で紹介された、他県士会の取組みの中から3つを紹介する。

ICTを活用した研修会や学会の

e・ラーニングシステムの導入

【鹿児島県作業療法士協会】

鹿児島には島しょ地域が多く、島しょ地区会員が研修会に参加することが難しい現状があった。地域格差を軽減すべく遠隔地ネットワークを構築し、研修会参加や、県学会参加を実施した。通信にはGoogle Hangoutを2回線用い、メインPCからの出力画面の共有とWebカメラを通してサテライト会場内の映像をサブスクリーンに映しながら実施している。このシ

システムの導入により島しょ地区会員の会議参加や、県学会での口述発表を実現している。また島しょ地区会員が別会場で集えれば、グループワークが必要な現職者研修の受講も実現している。離島地区を抱える長崎県士会でも実現できるよう、ネットワーク環境を整えるなど早急に対応していきたい。

将来の人材育成に向けた取組み

① 【埼玉県作業療法士会】

組織力強化を目的に「夏キャン」と称するイベントを養成校と施設会員で協力し、高校生向けに施設見学・輪流活動を実施している。また、養成校学生に対しては「学生会員制度」を設け、夏キャンへの動員と長期実習前に先輩OTとのぶっちゃけトークイベントを開催している。また、未入会OTには「おためし会員制度」を設けたり、育児・子育て・介護を担う会員には、研修動画のネット配信を試みるなど、関係者が参加しやすい活動や環境を整えることで入会者増や退会者減を図っている。

② 【石川県作業療法士会】

県内の小・中・高校生とその家族、そして教職員を対象として「作業療法士の働き方を伝える」教育支援プラットフォーム事業を実施し、県内の教育振興に協力している。小学生には利き手片麻痺設定の母の調理活動のお手伝い企画で自助具やOTのアイデア・工夫に触れ、中学・高校には卒業生OTや近隣OTが学校を訪問し、キャリア教育支援相談を実施している。また会員の施設見学を実施し、患者交流を含めた作業療法体験セミナーを開催し、OTを知りきつかけを多く提供している。人口減の著しい長崎県でも、士会が将来の人材育成に対する具体的な取組を検討していくことが望ましい。

（福島浩満）

言葉に宿るいのちの輝き



信じるとき、いのちは輝く

OTグッズ紹介



一般向け広報誌
laugh (ラフ)

作業療法士の役割、具体的な活動報告など一般の方にもわかりやすい内容になっています。必要な方は長崎県作業療法士会事務局までご連絡ください。



ボールペンと長崎県作業療法士会ロゴ入りの紙袋
赤・青・オレンジ・緑の4色あります。
ボールペンは非常に書きやすいです。
紙袋はロゴがかわいくインスタ映えます。

さいかい106号編集担当



宮崎病院 原修平

哲翁病院 林田万由

編集後記

「さいかい106号」はどうだったでしょうか。

私自身、長崎県作業療法学会に初めて広報局の一員として参加させて頂きました。一番印象に残ったことは、書家の金澤翔子さんが実際に目の前で「飛翔」を書く場面でした。金澤さんは書道という作業を通して、私たちに無限の可能性のあることを伝えてもらったような気がします。金澤さんにとって最高のパートナーがお母さんであるように、患者さんが自分らしい生活を送れるように、患者さんにとって作業療法士が最高のパートナーになればと思いました！という気持ちを込めてこの写真を裏表紙にさせて頂きました！